

『Riseez Larp Evolution Hyper』 前文

ニューヨーク New York, ハーレム Harlem, 古い赤煉瓦のアパートメント、黒い鉄製の外付階段。半地下の部屋の割れた曇りガラスの窓、寂しい歩道。手摺のある玄関前の石段。十二段あり、黒人が坐っている。手に小さなブルースハープ Blues Harp, リードの震えのひずみは、半音下がった、即物的な、かん高いブリキ音と、ぶち壊れたチューバのような低い金属音の雑ざったような、不安定な、揺らぎの音程。乾き切った、深みやまろみや潤いのない、輪郭のきつい、存在のくつきりしたサウンド Sound. 真夏の昼下がりの、気怠い静寂を裂帛する、古い蛇口の栓を捻るような、響き。

New York. Harem. The apartment of the old red brick. Black iron attaching externally stairs. The frosted glass of the window of the semiunderground room is broken. The desolate sidewalk. The stairs of the stone in front of the entrance hall have a handrail. There are 12 steps of stairs. African-American sits down. His hand has small blues harp. The distortion of the quiver of the lead. The sound that a semitone fell to. A practical high-pitched tin plate sound. The low metal sound such as the broken tuba. Pitch to shake that is the instability that they were mixed in. The sound that it drained dry, and there were not depth and the softness and moisture, and an outline was severe, and existence became clear. The sound that turns the stopper of the old faucet which performs earsplitting shriek of the languid quietness of the early afternoon of the midsummer.

附錄

天易真兮氏のノートからの抜粋。

無題 (「…ならば、いったい、小生は何を言っているのになつてゐるのか? だから、<http://syiveeyh.g2.xrea.com/bluehyper.m4a>なのである。)」 ※英訳 (All of Concepts, all of Thoughts, all of Feelings, all of Interpretations, all of understanding of Being is sudden things, there is no basis without exception. If that were so, what could I describe by these words? Of course, it is "<http://syiveeyh.g2.xrea.com/bluehyper.m4a>".)

『……真実を究めたい。事実を究めたい。存在を究めたい。それらはすべて同じ問い（同じ要求）である。』

だが、問うよりも遙かな前に、思考は糺す。論理という思考の律令（のうちの現行法）に遵い、問いを解析し、諸々の考概に就いて糺す。真実とは何か。事実とは何か。存在とは何か。現実とは何か。何かと問うことは何か……等々々々だ。

しかし、諸考概（具象・抽象を問わず諸概念（あらゆる存在了解（物象・事象などの現象、全抽象概念、我々の見ているすべての存在、想う凡ての存在、全宇宙の一切）の凡て、全認知・全意識それ自体、あらゆる思考及び思惟、想念・情念の何もかも等々々々）は、唐突で、経緯なく、根拠なく、忽焉と既在するかのような直観を我らに與える。だが、そうなのか、どうか、実際、確かめようがない。

又、諸刃の刃ラヴィリントス的に、論理という思考の律令自体の正しさ、妥当性、それが何であるか、をも糺す。だが、事情は諸考概と同じである。すると、律令に拠るこの批判自体が正し

いのか、正しくないのか、わからなくなる。律令は検証不能だが、未検証なものに、正しさも妥当性もないという、律令の規定はどう考えるべきか（その規定も妥当性がないとするところ）。『自らを喰らい尽くそうとする原蛇は喰らうのか喰らわれるのかわからない』と同じ迷宮に陥る。(++)

（ならば、いったい、小生は何を言っていることになっているのか？ <http://syitecjh2.xrea.com/bluezyparm4> じゃあ）

だが、我々はA考概をB考概へと結ぶ飛躍の瞬間に生じる了解（納得）という心情の他に、理解（意識）というものを持たない。又、結びの法則性が論理という思考の律令である。これ以外の思考（意識）というものを持たない。

究めようにも、律令に遵う（論理思考をする・意識をする）限りに於いて、未遂不収という迷宮に陥る（未遂不収とは、未だにどのような結論も遂げられず（という結論にすらも、どのような見解にも収まる）ことができない（という見解にすらも、ということである）。だが、それも、律令に遵う限りに於いて、という限定的な話でしかないのです。抑々そもそもそういう事実があるか、あつてもその実態がどうあるか、一向に定かではない。

（では、いったい、何をどうすればよいのか？ <http://syitecjh2.xrea.com/bluezyparm4> しかない）

※古来、眞神地方に於いて云う、「人、堂々果敢すべし。人、義しきと以（おも）ふを爲す善し」と。

平成廿四年壬辰甲辰清明 虹始見 万物発而清浄明潔 可知草名之候 』